

長野県軽井沢町における藪刈り作業 ～官と民、都市と農村、専門家と一般住民、世代を超えた交流・協働を目指して～

中部森林管理局 東信森林管理署

総括森林整備官 関 諭

軽井沢町西地区国有林藪刈り実行委員会事務局長 打越 綾子

1. 課題を取り上げた背景

軽井沢町は町の面積の約6割が森林で、そのうちの約7割が国有林です。数多くの野生動物が生息しており、この豊かな自然環境を後生に引き継いでいく必要があります。

一方で、その森林と住宅地・別荘地が隣接しており、人間の生活圏と野生動物の出没エリアが重なるため、野生動物による農作物被害・家屋侵入被害、糞尿被害などが深刻化し、数年に一度はツキノワグマによる人身被害、さらには野生動物との交通事故も発生している状況です。

そこで、豊かな自然環境の象徴たる野生動物を保護することと、野生動物による被害を防ぐことを目的とし、人間の生活エリアとツキノワグマを中心とした野生動物が潜みやすい藪との間に、見通しの良い緩衝帯作りを始め、12年間にわたり多様な立場の人々によって森林整備活動を行ってきました。

2. 取組の経過

軽井沢町大日向・追分地区の軽井沢西部小学校の北側、浅間山国有林2072林班の約25haを対象に、2007年より活動を開始しています。

最初の数年は、地域住民やボランティア団体が持ち回りで主催者を務めました。2013年からは実行委員会を立ち上げて、毎年作業内容を話し合っています。参加者は、地元住民やボランティア、自然保護団体、都市部からの若者ボランティア、地元小学校・経済関係者、長野森林整備協会東信支部、町議会、行政など、様々な方が参加しています。

2007年開始当初は30名程度の参加者でしたが、現在では100名を超え

るほどになりました。また、12年間を振り返れば猛暑の時も、台風で順延の時もありましたが、参加者の安全と整備作業の効率を考慮して臨機応変に対応しています（平成30年度は午前中が土砂降りでも、午後は晴れて予定エリアを整備しました）。なお、終了後には交流会を行い参加者間の交流を深めています。

3. 実行結果

緩衝帯作りをすることで、野生動物の追い払いをしやすくなり、林道沿いの藪を刈って見通しを良くすることで、人と野生動物とがそれぞれを早く認識できるようになりました。多くの軽井沢町民からも関心を集め「あそこが急にきれいになったね」「うちの地区でも藪刈りをやった方が良いかな」という言葉も聞かれ、軽井沢町における森林整備の象徴たる場所になってきました。藪刈り参加者からも「楽しかった」という言葉が毎年聞かれます。



藪刈り前（見通しが悪い）



藪刈り後（見通しの良い環境に）

4. 考察

軽井沢町の豊かな自然環境を守り、人と野生動物の共存を図るためにはその地域に暮らす地元住民が自然環境を保全する作業を行うのと同時に、都市部の住民や観光客の方々にもその活動に参加していただき「協働と交流」で「自然と地域」を守っていく必要があります。

今後とも官と民、都市と農村、専門家と一般住民、世代を超えた交流・協働による森林整備活動に取り組んでいきたいと考えています。